

16 eGFR 低下症例に対する漢方薬の効果についての考察

沢村泌尿器科クリニック

澤村 新

【目的】十全大補湯の腎機能低下症例に対する改善効果を調べた。

【方法】令和3年度にeGFR値が $< 60\text{ml /分/ } 1.73\text{平方メートル}$ (以下単位略)であった51症例に、T社十全大補湯エキス顆粒 7.5 g /日 を約3ヶ月投与した場合のeGFR値の変化を調べた。症例は、男性35例、女性16例。平均年齢74.8歳(50~90歳)、年齢中央値 75.0歳、51例中45例(88%)が65歳以上の高齢者。

【結果】十全大補湯投与前eGFR値平均51.6(21.0~59.5)投与後平均57.3(22.1~76.5)paired T test $p < 0.01$ eGFR値は改善45例、不変1例、悪化5例。改善率88.2%であった。主な副作用は、肝機能低下1例、かゆみ1例、下痢1例であった。

【考察】高齢化社会となり、高齢者の腎機能低下症例が目立つ。これは純粋な加齢によるeGFR低下症例も含まれ過剰診断している可能性もあるが、糖尿病、高血圧、脂質異常症、心血管疾患や糸球体腎炎を高齢者は合併していることが原因になることもある。今回高齢者のeGFR低下症例を、老化と考えると老化について西洋医学では昔オスラー博士(William Osler:1849~1919)は「ヒトは血管とともに老いる」という有名な言葉を残したが、これは全身の血管の老化と考えられる。東洋医学では五臓論では腎虚に対して補腎剤を、気血水理論では、体を構成する気と血の両方が虚した状態(気血両虚)を老化と考え、参耆剤に代表される補剤をその治療に提唱していることも多い。今回高齢者のeGFR低下症例は腎のみならず五臓全体の気(働き)の低下と考え、体全体の気血両虚を補う気血双補剤の一つである十全大補湯を投与し、eGFR値の改善効果が認められた。ただ全般的にしっかり服薬ができていない傾向もあり、今後方剤の見直しだけでなく、服薬の有無の確認も含め、より具体的な服薬指導も大切と思われた。

【結論】十全大補湯は高齢者のeGFR値低下症例に試みても良い処方と思われた。